

ようこそ蓼科の地へ！ ～体験入学行われる～

ようこそ！中学生の皆さん。10月27日（火）、午後より中学生対象の体験入学が行われました。広域より109名の中学生、保護者34名、学校関係者13名の計156名の皆さんが集まってくださいました。中学3年生はいよいよ進路決定の時期。本校の特長がよく伝わった機会になりました。以下は生徒感想

- 体験授業について** 先生たちがフレンドリーで楽しかったです（理科）。他の中学とも戦ってとても楽しかった（体育）。
学校説明について 楽しそうな生徒会企画があって楽しそう。 蓼科高校の素晴らしさがたくさん伝わってきた。
全体を通して 今まで知らなかった部分を知ることができた。自然もあり、地元でもあり、来たいと思いました。



全体会



数学：おいらと多面体の秘密



国語：地獄案内講座



理科：香りの化学

「蓼科学」 調べの成果を世界に発信 ～長野大学との高大連携～

蓼科高校では、平成18年(2006年)より長野大学と連携協定を結び、「蓼科学」と「地域ⅠⅡ」の授業において高大交流をしています。今回は、前川道博教授のご指導の下、初代校長の保科百助先生が集められた貴重な鉱物標本をデジタルアーカイブ化しました。このことは「週刊うえだ」にも取り上げられ（記事は裏面）、その様子の映像は本校HPからでもご覧になることができます。ぜひご覧下さい。

生徒のまごころ被災地へ ～生徒募金を赤十字病院へ～

生徒会では先日、1年間かけて集めた台風19号災害の義援金を日赤本社へ届けるために、川西赤十字病院を訪れました（記事は裏面）。これは生徒会が代々先輩から後輩へ受け継がれていく伝統の取り組みで、この優れたレガシーシステムは本校の宝物です。代表の滝沢君曰く『緊張しました(^_^)』。

困ったお話(その11) 本校を守る緑の守衛隊長

前回このコーナーで学校を守る青大将を取り上げたが、もう一人(匹)有能な守衛がいたので紹介しよう。彼の仕事は門番で、不審者が現れないか毎日夜通し睨みをきかせている。翌朝午前7時前に私が門を開けるまで、微動だにしない。私は彼を「カエル隊長」と呼んで尊敬していた。

近づいて見るとそのふてぶてしい面構えと大きく張ったおなかに圧倒されてしまう。人望がなく困っていた私には、これで青大将、カエル隊長、にゃんこ先生※注と、人間以外で強い味方ができたと喜んでいた。

(注※にゃんこ先生とは、No.1号で私に狩りを教えようとする猫)

しかしカエル隊長は、なぜ毎朝同じ門の同じ場所にいるのだろう。やっぱり「門番」という強い使命に突き動かされた以外考えられない。そこで理科でカエル専門家のA先生に理由を聞いてみたら、「アマガエルは気温が低い朝は隠れてじっとして、活動できるまで休んでいる。また、同じ場所に来る習性がある」らしい。また、「しばらくしたら場所を変えるので、いなくなります。」と教えてくれた。あれで隠れてるつもりだったのかと驚いたが、しばらくしたら本当にいなくなった。

それでも私は、隊長は持ち場を変えただけで、学校のどこかで守備を固めていると信じている。青大将や猫などと顔で張り合いながら…



気合バリバリだぜ

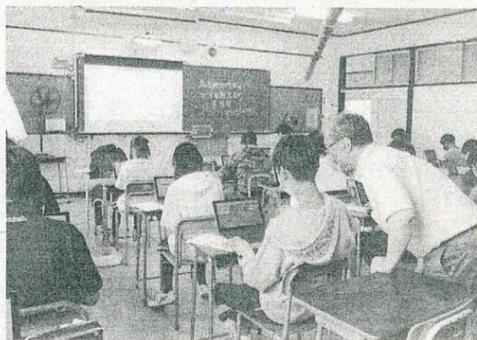
本校職員・生徒以外の無断校地内立ち入りを禁止し許可なく立ち入った場合は警察に通報します。



うんにゃ。
ワーケーション

勤務中？ 休憩中？

蓼科高校で 蓼科学 長野大学と連携講座 保科百助の地学標本 デジタルアーカイブ化



蓼科高校では地域貢献で
きる人材を育成しようと、
「地域を学ぶ、地域に学ぶ、
地域と共に学ぶ」をテーマ
に「蓼科学」を開講。外部
講師を招き、地元ゆかりの
人物や文化財・歴史・自然
などを学んできました。

長野大学との連携講座で
は、前川道博同大教授の指
導により同校初代校長で鉱
物学者の保科百助アーカイ
ブ実習を実施。同校に保管
されていた「長野県地学標
本」を生徒が作業分担し、
初めてデジタルアーカイブ
化しました。

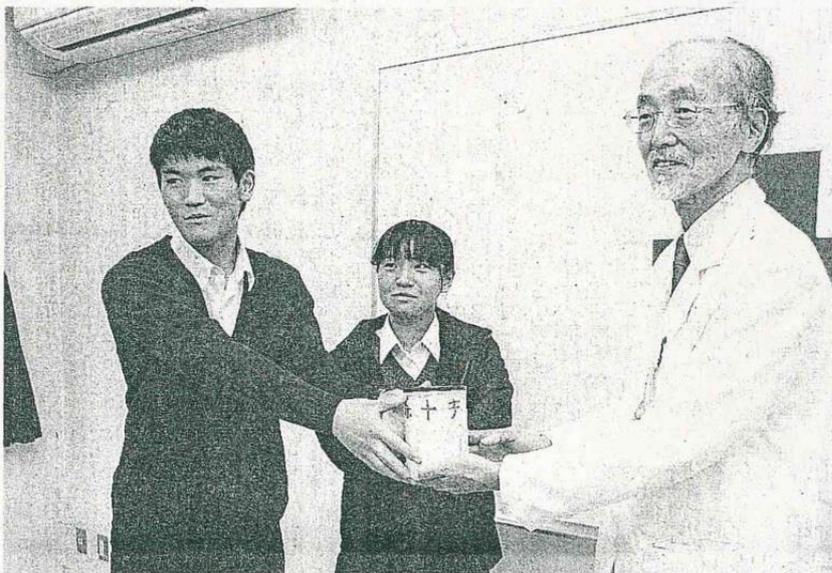
今年度は同大・前川研究
室が開発したデジタルコモ
ンズツール「d-commons」



net」を使い、生徒各自がス
マートフォンやタブレット
でアーカイブデータを作成。
9月中旬に行われた「蓼科
学」の授業には2年生29名
が参加して、「地学標本第
2集」のインターネット公
開に向けた最終チェックを
行い、自分が担当した石の

特徴や採集場所などを調べ
て確認していました。
山下 瑠海君と小西大空君
は、「作業を通じて知らな
かったことへの興味が深ま
った」「五無齋先生の業績を
世界に向けて初めて発信で
きる。素晴らしいです」
前川さんは「『蓼科学ア
ーカイブ』には生徒たちの
地域学習の成果や五無齋保
科百助全集も併せて公開し
ます。今後も保科百助や立
科町などを研究する情報源
として全国に向け公開する
取り組みを進めていきたい
と話していました」
「蓼科学アーカイブ」は、
[https://d-commons.net/
fategaku/](https://d-commons.net/fategaku/)で公開されます。

蓼科高生 台風被災に義援金 伝統の募金 日赤本社通じ



大和院長(右)に義援金を手渡す蓼科高生

蓼科高校(立科町)の生徒
が川西赤十字病院(佐久市)
を訪れ、昨年の台風19号災害
の義援金1万2104円を大
和真史院長(69)へ手渡した。
日赤本社を通じて被災した自
治体へ配られるという。

ある。この日は生徒を代表し
て3年生の滝沢恒星さん(17)
と上原菜白さん(18)が同病院
を訪問した。
滝沢さんは「被災して苦し
んだ人のために使ってほし
い」。大和院長は「全国で災害
が増えている中、とても大事
な活動だと思う。ありがたく
ちようだいしたい」と話した。

同校は8月の文化祭から翌
年の文化祭までの1年間、募
金を集めて寄付をする伝統が